

もっと世界とつながる グッとくる マガジン

GM

GLOBAL MIND

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

[グローバルマインド]

62

Jul. 2017

学校法人 大阪国際学園
広報誌

[特集]

2018年 OIUの 学びが進化する

活躍する、卒業生たち

浅海電気株式会社

仲畠 裕佳さん

高砂熱学工業株式会社

中野 優菜さん

学長対談

大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部

野呂 輝久 客員教授

(前 株式会社ガンバ大阪 代表取締役社長)

グローバルトリビア 世界の幼児教育

学園HEAD LINE / 研究室探訪

大阪国際学園は、建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成します。



「経営経済学部」 の開設で 進化^{する}。 学生たちは

経営経済学部長（予定）

佐藤 智明 教授

これまでにない「体験型」の学び

2018年にスタートする「経営経済学部」。名前はベーシックですが中身は極めてアグレッシブ。「体験型の学び」を掲げ、今までにない画期的な試みに満ちています。経営学科と経済学科に分かれたこの学部では、それぞれにフィールドワーク、ボランティア、インターンシップなどの体験型プログラムを数多く用意し、地域社会や国内企業にとどまらず、広く海外へも展開します。またコース選択では、主専攻と副専攻が用意され、副専攻では他学科コースも選択できるのも特徴です。普通なら学生時代には味わえない、ユニークで刺激的な体験に出会える…それが新しい経営経済学部です。



学部パンフレット

が進化^{する}。

大阪国際大学における2つの大きなトピックス
をご紹介します。変化する時代に合わせて、OIUの
教育もまた進化しているのです。

大学に新しい風が吹く

20年近くの歴史がある、人間科学部スポーツ行動学科が、2018年4月より「男女共学」となります。以前から大学の共学化による男子受け入れの意見はありましたが、このたび松山下校地に新グラウンドと体育館が完成。広く快適な環境が整ったことで、いよいよ共学化への移行が現実となりました。

男女共学化によって、男子学生による「新しい風」が学科・大学を活気づけてくれることを期待しています。女子学生の持つ真面目さや繊細さに、男子学生の力強さやたくましさを加味され、新しいスポーツ行動学科が生まれることでしょう。学校の先生やあらゆるスポーツ指導者の現場においても男女共同参画の時代です。その意味でも共学化は必然の流れだといえます。



スポーツの力でキャリアを築く

共学になることで、スポーツ行動学科のカリキュラムや将来像が大きく変わるわけではありません。これまで通り教職、公務員、健康フィットネス指導者、トレーナーを始め、あらゆるスポーツビジネスを念頭に、就職100%を目指して細やかな指導を行っていきます。この学科の卒業生はスポーツを通じて身につけた「礼儀正しさ」や「チームワークを築く力」によって一般企業へも多く就職しています。スポーツの力を身につけて、社会へ羽ばたく男女を、今後も力強くサポートしていきます。

2018/4 START!!

問題解決能力に秀でたタフな人材へ

なぜ今、経営経済学部を設立するのでしょうか。

社会がグローバル化し、日本の産業界や経済社会がドラスティックに変わっていく時代、真に必要とされる人材も変わっていくからです。たとえば物事を多角的に見ることで課題を発見し、解決する能力、他者と良好な関係を構築するコミュニケーション能力、どんな失敗や悩みも乗り越える柔軟でタフな感性…。

社会の一員として主体的に行動できる「人間力」を備えた人材を、この新しい学部から送り出したいと思っています。

座学と体験の融合が学生を進化させる

新学部では座学を疎かにするわけではありません。経営学や経済学の専門知識はしっかりと身につけた上に体験プログラムを重ね、学びをより深めることを目指します。通常では大学で知識を学び、社会に出てから実践活用しようとしています。その時に初めて「自分に足りなかった知識やスキル」が見えてくるものであり「大学でもっと学んでおけば良かった」と感じるもの。新学部では、そんな学問知と実践知を大学時代にやっつけてしまおう、というわけです。もっと学びたい、成長したい…学生達に“スイッチ”を入れる学びが、ここにはあります。

体験プログラムの一例

■ 大人インターン

学生が会ってみたい職業人にアポイントを取り、インタビューするという選抜プログラム。

特設サイト

https://oiuvoice.com/otona_intern/



■ パナソニックビジネスリーダー養成プログラム

パナソニックと提携した1ヶ月の研修プログラムで、経営の基本を学びます。

■ ガンバ大阪インターンシップ

ガンバ大阪と連携・協力し「スポーツビジネス」を現場で学びます。



■ グローバル短期研修

仲間と一緒に海外での活動にチャレンジします。



特集

2018年、OIUの学び

「スポーツ行動学科」は 男女共学化に 進化^{する}。

人間科学部スポーツ行動学科主任

高見 彰 教授



大阪国際学園 松下町校地

ASAMI

Electric Corporation

人と関わる楽しさや趣味…
興味の種は、O・I・Uでの日々で
見つけられました。



浅海電気株式会社 大阪本店
なかじま ゆうか

仲寫 裕佳さん

ライフデザイン総合学科 キャリアデザインコース 2013年卒

現場をサポートする新部署で、
より深くお客様と関わりたい。

電気や空調、衛生等の設備工事を請け負う当社に入って4年が経ちました。今まで在籍していた営業部積算課の主な業務は、工事の図面から見積もりを算出すること。入社後すぐに携わった案件は、なんとO・I・U1号館の建替工事でした。最近O・I・Uを訪れ1号館を見たのですが、「あの時の図面がこんなに美しく…」と改めて感動。図面の読み取りだけで精一杯だった当時を思い出しました。今年からは、地域総合職に昇格し、現場支援室に配属されています。これまでよりもさらに現場に近い位置から、工事をサポートしたかったので、立候補したんです。私はもともと、学生時代に飲食店でアルバイトをしていたくらい接客が好き。お客様と直接関わる機会が増えることで、ますます仕事が楽しくなります。



先輩方が親身になってくれたから、
後輩にも自然とやさしくなれる。

就職活動時に当社を志望した理由も、「お客様第一」のスローガンに「これだ!」と共感したから。当社はお客様を尊重することはもちろん、社員も大切にしているんです。例えばメンター制度。新入社員には先輩が付き、業務だけでなく精神的なサポートもしてくれるんです。私も入社当初はぜひ悩みを聞いていただき、励まされましたね。今は私がメンターとして、同じくO・I・U出身の後輩を見守っています。先輩方の支えがあったぶん、後輩を育てようと思える社風なんです。オフも充実していて、O・I・Uで学んだ栄養学についての読書や資格試験勉強をしています。O・I・Uは授業も学生も多彩なので、在学生の皆さんも、毎日をよりエンjoyいできる興味の種をぜひ見つけてほしいですね。



後輩の意見にも耳を傾けて
風とおしのいいチームに。

小2からソフトボールを続けていた私。
OIUに入學したのも、部活動で活躍し
たいという思いからでした。クラブの仲間
は学科も同じ人が多く、共に過ごす時間
が長いせいか、仲が良い反面よく衝突も
しました。ソフトボールはチームスポーツ
であり、話し合いを重ねることで意見を深
めることができ、プレイにも好影響が出た
のか、3年次のインカレでは3位に輝きま
した。コミュニケーションの力を実感した私
は、4年次には副キャプテンとして、後輩
の意見を積極的に聞くことを心がけ、物
怖じせず率直に発言できる雰囲気作りに
チャレンジしました。後輩も自主的に活発
な行動ができる空気が生まれ、チーム運
営もスムーズになりました。

4年間頑張ることができたのは、良き
指導者、スタッフの方々のおかげであると、
感謝の気持ちでいっぱいです。



お客様からの「ありがとう」が
何よりのやりがいです。

当社はビルや工場の空調システムの構
築や設備工事、メンテナンスを行う業界の
パイオニア。私の仕事は、取引先のデータ
を収集・整理したりするパソコン業務で
す。入社当時は建築や空調のことなど分
からず、本当にゼロからのスタート。電話
対応もままならない中、先輩に積極的に
質問をしたり、自分で勉強したり、少しづ
つ知識を増やしていきました。スポーツで
培った「コミュニケーション力」や「タフさ」
のおかげですね。最近ではお客様からの質
問にも自信を持って答えられるようにな
り、「ありがとう」の二言にやりがいを感じ
ます。実は当社は、OIU一号館や大和
田幼稚園の施工にも携わっているんです。
そんな形で母校に関われたのは嬉しいし、
名誉なこと。今日も先輩達があの場所で
学んでいる...と思うと感慨深いですね。



ソフトボール部での毎日が
教えてくれたのは
コミュニケーションの大切さ。

 高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.
大阪支店



高砂熱学工業株式会社 大阪支店

なかの ゆうな

中野 優菜さん

人間科学部 スポーツ行動学科 2015年卒

机上の学問では、知識はつくけれど知恵は学べませんね。

新学部は「体験型」。これまでにないスタイルの学びです。

大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部

野呂 輝久

客員教授

(前 株式会社ガンバ大阪 代表取締役社長)

プロフィール (のろ てるひさ)

1954年生まれ。名古屋大学経済学部卒業。1977年、松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)入社。広報部長やシステム・設備事業推進本部長などを歴任。2012年に「ガンバ大阪」へ移り、スタジアム建設本部長、副社長を務めた後、代表取締役社長に就任。2016年に同社を退社後、大阪国際大学・短期大学部の客員教授に。

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部 学長

宮本 郁夫



スポーツスピリットを 身につけてほしい。

野呂 宮本学長が就任された2014年、私が社長を務めていたガンバ大阪とパートナーシップ協定を結びましたね。

宮本 就任してすぐ野呂さんのところへ行ったからね。私にとって最初の仕事でした。

野呂 大学の学長としては大胆な行動ですね。宮本さんの狙いは何だったのでしょうか。

宮本 スポーツがこれからの時代を牽引するキーワードになるからです。2020年のオリンピック開催に向け、今後ますますスポーツに

注目が集まるでしょう。スポーツ振興に関わる人材育成は喫緊の課題だといえます。本学にはスポーツ行動学科があり、2018年に開設予定の「経営経済学部」でもスポーツビジネスコースを設けますが、ガンバ大阪との連携は、その学びに大いに役立つと思ったのです。

野呂 なるほど。国家戦略としてスポーツ庁が設置され、スポーツ市場規模の10兆円増を目指すことも明らかにされています。来たるスポーツ時代に活躍できる人材が、本学から羽ばたいていくのですね。協定先にガンバ大阪を選んでいただいたのはなぜですか。

宮本 私がパナソニック出身ということもあるのですが、サッカーというスポーツに不可欠な「チームプレイ」の大切さを学生に学んでほしいからです。会社に入って役立つのは何と言ってもチームワークですからね。

野呂 確かに、サッカーチームも会社も同じですね。たとえ凄い天才がいっても、チームワークが悪ければ決して勝てないんですから。

何かひとつだけいい 得意なことを持つ。

宮本 野呂さんの大学時代は、どんな学生でしたか。



野呂 陸上部だったこともありスポーツには熱心でしたが、真面目に講義を受けていたとは言えませんが、パナソニックの面接では「俊足の野呂です」って、ダジャレ採用(笑)。それに比べると今の学生は、みんな一生懸命だと感じします。

宮本 私もE.S.S.に入っていたのですが、クラブ活動には熱心でしたね。英語が好きで勉強していたおかげでパナソニックに採用されたようなものです。

野呂 当時のパナソニックって、成績なんか見てませんから。その代わりに面談はみっちり30分、人物を見るんです。

宮本 だから私が学生に言うのは、優の成績を沢山取るのも良いけれど、それよりも「自分の得意なこと」を作れと。スポーツが苦手なら英語でもいい。ボランティアでも、

海外留学でもいい。勉強以外に何かやらなくちゃ。企業からすれば、そういう人材を求めますからね。

野呂 人事評価の世界では「T字型人材」って言いますね。何かひとつ突出した得意分野を持ちつつ、それ以外の多様なジャンルについて広い知見を備えている人。

宮本 そう！大学では専門分野だけでなく、一般教養をしっかり学ぶと共に、自分の得意分野を見つけてほしい。そのための多様な機会を、本学では用意しているんです。

体験することが 真の成長につながる。

宮本 2018年に開設予定の「経営経済学部」では、野呂さんにスポーツビジネスについての講義を受け持っていただきます。吹田サッカースタジアムの建設に携わった野呂さんならではの、熱い講義を期待しています。

野呂 私の話だけだと学生も退屈でしょうから(笑)、実際にスタジアムに連れて行って現場を見せたいと思っています。百聞は一見に如かず、実物を見るだけでスポーツビジネスのインパクトを感じてもらえるでしょう。

宮本 それこそ、新学部で実現したい「体験型の学び」です。フィール

ドワークやインターンシップなど「現場」体験を取り入れていくことで「実践的な経営経済」を学ぶことを目指しているのです。

野呂 アカデミックな知識ばかりでは、本当の知恵は身につきませんからね。知恵とスキルが学べるのは、何と言っても現場体験。困難にぶつかって、悩んで、行動する。このサイクルが回らなければ知恵にならないんです。

宮本 その通り。手前味噌になりますがこれまでない新しい経営と経済が学べる学部になるはずですよ。野呂さんという力強いサポーターもいますしね(笑)。

野呂 大学で人に何かを教えるのは初めてですが、やりがいのある仕事です。若者を教えるということでは、未来の社会を創るということですから。

宮本 私も含め、教育の分野で少しでも世のため、学生のためにがんばります。共に、がんばりましょう。



グローバル・トリビュア 世界の 幼児教育



アメリカ



ココが POINT

ヘッドスタート

「ヘッドスタート」はアメリカが1960年代の半ばから行っているプログラム。低所得者層の3〜4歳児を対象に「就学前にアルファベットが読め、10まで数えられるよう」支援する就学前教育です。

幼児教育は年齢別の縦割りになっており、「0〜2歳まで」と「それ以降」に分かれています。2歳まではデイケア（保育所のような場所）、それ以降はプレスクールという幼稚園に準ずる施設に通わせるのが一般的です。デイケアは生後6週間から預けられるところが多く、首が据わっていないくても大丈夫なのとか。公立の保育所は存在しません。アメリカには収入に応じて保育料の変わるシステムがないので、良い保育サービスは出費も高くなります。



イギリス



ココが POINT

チャイルドマインダー

「チャイルドマインダー」とは、少人数のアットホームなスタイルで、有料で保育サービスを提供できるイギリスの国家資格。日本でも取得することができますが、民間資格となります。

イギリスでは2〜4歳向けの保育所、4〜7歳向けの幼稚園があり、幼稚園には保育学級が併設されています。この国では、就学前教育は、週に15時間までは無償。それ以上に子どもを預けたい、通わせたい場合は差額を払います。ナニー（乳母）の利用が普及していて、気軽に利用する人も多いようです。人件費の安い移民のナニーから、イギリス人のプロのナニーまで選択肢が色々。さすがは「メアリー・ポピンズ」の国ですね。

ココが POINT

森のムツレ教室

スウェーデンのプレスクールでは多くが「森のムツレ教室」というカリキュラムを取り入れています。ムツレとは森に住む妖精。ムツレに扮装した大人が、森での遊び方や自然の大切さを教えます。環境大国ならではの授業ですね。

1歳から5歳までは公立のプレスクールに通いますが、教育省がこれを管轄し「学校教育」の一環としています。保育士は学校の先生となり、社会的ステータスや給与水準も、他国の保育士よりも高くなっています。またスウェーデンでは、待機児童はほぼゼロ。プレスクールに申し込んでから3〜4ヶ月以内に入園することが義務づけられているためです。



スウェーデン

2015年から「幼保連携型認定こども園」へ移行し、

2017年には本園舎も完成した本学園の大和田幼稚園。

日本では幼稚園と保育所の両機能を持つ、

新たな認定こども園が増えていますが、

海外の幼児教育ってどうなっているのでしょうか？



お隣の国、韓国の保育所や幼稚園のシステムは基本的に日本と似ています。

オリニチブ（子どもの家）と呼ばれる保育所は0歳から小学校まで。幼稚園は3歳から5歳までの3年制。近年では日本と同じように「幼保一元化」を目指した改革も進んでいるそうです。

また韓国の特徴としては、幼児教育の質を向上させるために、幼稚園教員に関する「教員能力評価」が導入されています。

ココがPOINT ノリバン

韓国には保育所、幼稚園の他に「ノリバン（遊びの部屋）」という家庭保育施設があります。アパートなどの一室で運営されていることが多く、小規模なオリニチブといったところです。



フランス



先進国の中で出生率が上昇しているフランス。子育て支援は差し迫った課題のようです。基本的に3歳から通う保育学校を「最初の学校」として位置づけており、小学校と一貫した教育プログラム（学習指導要領）にもとづいた教育が行われています。

0歳から2歳までの3年間は、保育所、一時託児所、保育ママなどの選択肢がありますが、「認可保育所」が激戦である点は日本と変わらないようです。

ココがPOINT 公認保育ママ

激戦の保育所を補完するのが「保育ママ」制度。120時間の研修を受けるなど一定の要件を満たした「公認保育ママ」が自宅で子どもを1〜4人まで預かることができ、選択肢の1つとして活用されています。

ドイツ



ドイツにおける幼児教育は「生後8週から3歳までの保育所」「3歳から小学校入学までの幼稚園」「生後8ヶ月から小学校入学までの総合幼児教育施設」に分かれています。自主性や感性を養う「シユタイナー教育」発祥の地だけに、学習に力を入れる欧米諸国とは違った幼児教育を行ってきました。

しかし2000年に入ってから「PISAショック」※によつて、学習への配慮もさるようになりました。

※子どもの知能・技能・問題解決力を測る「PISA調査」でドイツの学力低下が指摘されたこと。

ココがPOINT 木育（もくいく）

乳幼児の頃から野外活動を楽しむ、木の玩具に触れ、天然無垢材の建物で過ごす…森や木に親しむことで、健やかな人間性を育む「木育」。森の国ドイツでは多くの保育所や幼稚園で、この木育が取り入れられています。



幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

こども園、本園舎完成!

13ヶ月の工事期間を経て、楽しみにしていた本園舎が今年3月に50余年ぶりに新しくなり、4月から0～5歳児までの乳幼児を対象とした「幼保連携型認定こども園」が本格的にスタートしました!

鉄骨コンクリート造3階建の園舎

1階は4～5歳児の保育室、2階は3歳児の保育室。園児の使用する机や椅子も保育室に合わせて全て温かみのある天然木で整えられています。3階は0～2歳の乳幼児の保育室。静かなフロアで、清潔と安全を第一に調乳器や哺乳瓶熱風殺菌消毒保管庫などが取り揃えられています。



シンボルツリー



フォレストホール

広々としたフォレストホールは、園児全員が集まる始業式や終業式、誕生会など様々に使用しています。ホール吹き抜けの2階部分は、ぐるっと1周70mの広い廊下です。元気にかけ廻れる『走ろうか』、壁面でボルダリングができる『登ろうか』、そしてその先にはたくさんお話してほしい場所『語ろうか』があります。

屋上には、
天然芝の園庭と
プールが設置



走ろうか



語ろうか



登ろうか



同じキャンパス内にある大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科の先生や学生達と密接な連携を図りながら、交流活動を行います。学生達は幼稚園教諭、保育士を目指し、子どもたちと触れ合うことはとてもいい経験になると思います。子どもたちにとってもたくさんの人と出会い、関わっていくことは大切な経験です。



園児達に大人気の
「ひみつのへや」もある
図書コーナー。

松下町校地オープニングセレモニー

守口市松下町に完成した大阪国際学園松下町校地のオープニングセレモニーが今年1月7日、学園と工事関係者、大学、短期大学の学生、大和田中・高校、滝井高校の生徒ら約200人が参加して開かれました。晴れ上がった冬空の下、人工芝の緑が青空に映えるグラウンドとテニスコート、体育館で新たなスタートを祝いました。

奥田吾朗理事長は、枚方キャンパスを閉じて学園を守口市に集約し、学園発祥の滝井高校の近くに新たな校地を求めた経過を説明。「学園はこれから守口と共に生きていく覚悟です。街を活性化するのは学校です。みなさんの若いエネルギーで街の発展に貢献してください」と呼びかけました。

大学・短大

Challenge The Global Mind 学生チャレンジ制度 採択企画発表

学生達の「やってみたい」をサポートする、OIU・OIC独自のプログラム。書類審査、プレゼンの2段階を経て、奨励金を獲得し、企画を実現できる制度。

★学生チャレンジ制度採択企画

テーマ	代表者名
【同窓会特別賞】 OIUオリジナル食品の商品化～高野TOFUチョコクランチ～	真明 健悟
【地域協働センター賞】 OIUによさこい文化を!	山田 知寛
マナミール・プロジェクト サブテーマ:個人の削減から世界の削減へ	添郷 将史
15か国の制服ファッションショーを通じて世界の 人とつながろう ～優花祭がランウェイだ!!!～	渡辺 梨菜
OIUワールドマスターズゲームズ	妹尾 由美
インドネシアの孤児たちに生活用品をおくりませんか	中河 夏規

★プレチャレンジ制度採択企画

テーマ	代表者名
ハラル風料理を作りませんか?	Yusica Yofa Yulanda
演劇の世界に飛びこもう ～あなたも物語の主人公だ!～	浦田 佳歩
我ら学生に新しい居場所を!! ～昼休みLunch spot探検隊～	阿比留 祥大

滝井高校

ベトナム医療ボランティア

2016年度からベトナムの眼科病院へ、医療活動ボランティアを派遣しています。現地では患者さんのサポートや医療道具の搜索、手術の見学を行います。ツアーに向けての事前学習会では、ベトナム語でのあいさつや数字の読み方等、徹底的に勉強しました。手術後の患者さんの笑顔に感動した生徒達でしたが、将来について考える貴重な体験となりました。



大 学

第2回食物アレルギー対応食 コンテストで受賞

人間健康科学科3年生(当時)喜多野ゼミチーム

人間健康科学科3年生(当時)喜多野宣子准教授ゼミのチーム6人が考案したアスリートサポート料理が、第2回食物アレルギー対応食コンテストで『審査員特別賞』を受賞!! 作品名は「材料たった3つ!サクサク高野豆腐クランチチョコ～アレルギーのあるアスリートのための補食～」で、審査員の方々から2020年の東京オリンピックに向けた素晴らしい作品であると称賛されました。主催は、一般財団法人ニッポンハム食の未来財団で、学生の部では全国から500件を超える応募の中から選ばれました。



審査員コメント

アスリート向けの補食という豊かな発想力に感心します。高野豆腐のシロップ漬けや乾燥等の工程に工夫が感じられます。見栄えも味も素晴らしい作品。スポーツの合間に手軽に栄養が補えるのも魅力的です。

写真右:受賞作品「材料たった3つ!サクサク高野豆腐クランチチョコ」
写真左:3月12日に女子栄養大学駒込キャンパスにて行われた表彰式。グループ代表として中野杏菜さんと川村タ夏さん、指導教員として喜多野宣子准教授が招待され参加しました。

大和田中・高校

ココロの学校

世界や日本で活躍する人を招いて話を聴く「ココロの学校」は、1月に第18回目として国際教育支援NGO「e-Education Project Japan」代表の税所篤快(さいしょ・あつよし)氏が登場。ユーモアにあふれ、軽妙なタッチのお話に生徒たちは釘づけ。自らの行動により世界を変える行動力を身近に感じました。生徒とのトークセッションも盛り上がりしました。



最新情報は各校公式サイト、Facebook、Twitterで発信中!

■ 大阪国際大学
<http://www.oiu.ac.jp>



■ 大阪国際大学短期大学部
<http://www.oiu.ac.jp/oic>



■ 大阪国際滝井高等学校
<http://www.takii-h.oiu.ed.jp>

■ 大阪国際大和田中学校・高等学校
<http://www.owada-h.oiu.ed.jp>



■ 幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園
<http://www.owada-k.oiu.ed.jp>

■ 大阪国際学園 <http://www.oiei.jp>

大阪国際学園

検索





研究室 探訪

大阪国際大学 短期大学部
ライフデザイン総合学科
古田 雄一 講師 研究室



「ちょっとお話をうかがってもいいですか」。5月の土曜日の朝、大阪大和田駅近くのスーパーや自販機前で、子どもを連れのお母さんやお父さんに質問する学生の姿があった。短期大学部ライフデザイン総合学科古田雄一講師(30)の「地域研究」の授業の環で、子育てする人の立場から、大学周辺の地域の課題について考えるフィールドワークだ。シテイスンシップ教育。耳慣れない言葉だが、イギリスやアメリカを中心に、最近、学校教育に取り入れられ、日本でも注目されている。変化する現代社会で、

子どもたちが自らを取り巻く地域や政治、社会のことについて考え、より良い社会づくりに参画できる力を育むのが狙い。アメリカ・イリノイ州の公立高校で学んだ古田さんは、日本とアメリカの学校の違いを体験、シテイスンシップ教育は、現在の研究テーマで、全国組織の日本シテイスンシップ教育フォーラムでは2013年の創設当初から運営委員を務めている。

東京で生まれ、横浜で中学校までを過ごした古田さんは、父親の転勤で、家族でアメリカへ渡った。3月に卒業し、8月からハイスクールへ。日本では、当たり前と思っていたことが、アメリカでは違う。戸惑うことが多かったが、「結果的に教育をもっと知りたい」と今の研究に進むきっかけになった」といふ。ハイスクールを終え、帰国子女特別枠の入試で、東京大文科Ⅲ類に合格、教育への関心が高まり、教育学部、そして大学院へと進んだ。修士論文は、「生徒参画型サービスマーケティングの研究―高等学校における実践研究を通して―」。高校の1年生を対象に、「現代社会」の授業などで、高校生が地域にふれあい、課題を見つけて問題点を解決していく姿を追った。いま、古田さんが短期大学部で実践している研究の下地になったともいえる。

短期大学部と大学の教職課程の科目を担当するほか、教職科目以外では、シテイスンシップ教育と関連して「現代社会の仕組み」「地域研究」「社会生活の基礎」といった授業を展開している。また現役の保育士に、幼稚園教諭の資格を取るための講座も夜間に受け持っている。関西に住むのは初めてだが、父方の祖父父母が兵庫県の舞子に住んでいるので、幼い頃から休みの度に訪れ、馴染みがある。小学校から高校まで水泳を続け、背泳ぎが得意なのと、ピアノも中学3年までは弾いたキャリアもある。「今は、時間があまりないので、泳ぐこともピアノを弾くこともできませんが」とやや残念そうだ。



最初の学生の聞き取り調査で、「公園が少ない」「安心して子どもを外で遊ばせる場所がほしい」「歩道が整備されていない」などの課題が浮かび上がった。学生らはその後、市の行政担当者や市民を招いて中間発表を行った。学生目線の意見は行政担当者側にとって新鮮であり、新たな発見もあったようだ。学生らはさらに学習や調査を続け、課題解決のためのアイデアを提案していく。

独 白

大阪国際学園
理事長 奥田 吾朗

フェアでありたい

教育界で瞬に落ちないニュースが続いている。森友学園と加計学園。小学校開設と獣医学部新設に関わる疑惑だ。

二つとも、首相とその周辺の関与が焦点になっている。本人は、いずれも全否定しているが、疑惑は晴れない。政治が行政に介入したのか。加計学園問題では、文部科学省の行政のトップである前次官が、記者会見で「行政のあり方が歪められた」とまで発言した。だが、政府与党は国会で真相を糾すことに消極的だ。

私たちの私学が行政とこれまでに育み、築き上げてきた公教育への信頼や公共性に対して、社会から疑問符が付けられている。決して他人事ではない。それぞれどんな経過をたどったのか。法に照らして「公平」は保たれていたのか。検証することは、政治家の責任だ。さもないと、教育界に大きな禍根を残すことは間違いない。こんな社会を、未来を担う若者たちは見ている。そのことが何よりも悲しい。「李下に冠を正さず」「瓜田に履を納れず」。このコラムが刊行される頃には、視界が少しはよくなっていることを願う。

GM四コマ劇場 vol.6

うさこくま太郎の実習LIFE



作者：なかじー

- 本誌に記載の学年、肩書き等はすべて情報収集時のもので、発行時とは異なることがあります。ご了承ください。
- 本誌へのご意見、お問い合わせ等は大阪国際学園企画・広報課までご連絡ください。

各学校の最新ニュースは公式サイトで
ご覧いただけます。

大阪国際学園

検索



この印刷製品は、
環境に配慮した資材と
工場で製造されています。



学校法人 大阪国際学園

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
大阪国際滝井高等学校
大阪国際大和田高等学校
大阪国際大和田中学校
幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園